

脳梗塞にカテーテルで新治療

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

日本人の死因で4番目に多い脳卒中。このうち、高齢化に伴って脳梗塞の患者が増えている。脳の血管を詰まらせる血の塊（血栓）を薬で溶かす従来の方法に加え、山梨県立中央病院

は近年、カテーテルを用いた新たな治療法「血栓回収療法」に取り組んでいる。できるだけ早く血栓を取り除くことで脳の損傷を防ぐことを目指す。

脳梗塞は動脈が詰まることで血液が流れなくなり、脳に酸素や栄養が届かなくなると脳細胞

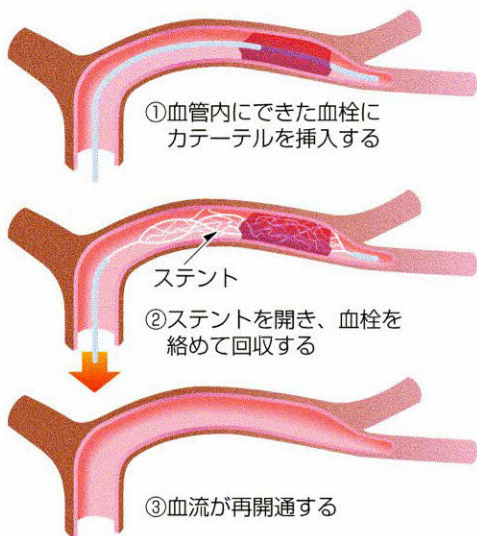


脳神経外科
若井卓馬医師

できるだけ早く血栓除去

《 136 》

脳梗塞に対する血栓回収療法



が死んでしまう病気。同病院脳神経外科の若井卓馬医師は「脳細胞が壊死すると、その部分の脳の動きを元に戻すことはできない。できるだけ早く血管を再開通することが重要」と強調する。

急性期の脳梗塞に対して

は、「t-PA」という薬剤を静脈に注射する「血栓溶解療法」が広く行われているが、対象となるのは発症から4・5時間以内。条件に当てはまらず治療ができないことや、効果がみられないケースもあるという。

こうした患者を救う最新治療が血栓回収療法。脳の血管にカテーテルを挿入し、血栓部分で

ステントを開いて引き抜くことで血栓を絡め取る。対象は、心臓にできた血栓が脳の太い血管を詰まらせる「心原性脳塞栓症」で、発症から6時間以内。血栓回収療法による血管の再開通率は60・90%という。

同病院は2015年7月から血栓回収療法を開始。年間約100人の脳梗塞患者のうち約4分の1が心原性脳塞栓症にあたり、今年3月までに半数以上の17人に実施した。

より多くの人がこの治療を受けるには「できるだけ早く脳梗塞の診断をする必要がある。発作が起きたらすぐに医療機関を受診してほしい」と若井医師。同治療を行える医療機関は県内ではまだ少ないという。t-PAの点滴を受けても血管が閉塞している患者を、直ちに血栓回収療法を行える病院へ搬送するシステムの整備が必要で、病院間の連携も求められている。

第2、4木曜日に掲載します